



令和7年(2025年) 8月29日(金) 第3号
発行/一般社団法人 プラスチックサーキュラーエコノミー推進協会
編集・発行人 森村 努
〒104-0033 東京都中央区新川 2-5-2 (エム・エム・プラスチック(株)東京管内)
TEL 03-5540-4226



(一社)プラスチックサーキュラーエコノミー推進協会(PPCE、森村努会長)は6月25日、東京・一ツ橋の如水会館にて、設立後初の第一回定時社員総会を開催した。全4議案が審議・承認され、令和7年度事業計画には、プラスチック資源循環を通じた経済成長、温暖化対策への貢献と、そのための事業環境改善に向けた取り組みが盛り込まれた。また総会後の懇親会には、国会、関係省・団体より多数の来賓が出席し、環境省・経済産業省から容器包装リサイクル入札制度の抜本的見直しを視野に合同会合を立ち上げる意向が示されるとともに、プラスチック資源循環の加速化に向けた一層の関係強化に期待が述べられた。

第一回定時社員総会で今後の活動方針承認

経済成長、温暖化対策への貢献と容り事業環境改善へ



PPCE・森村努会長



PPCE・本田大作理事

総会閉会後は、引き続き別会場にて国会、関係省、団体等から来賓を招き懇親会を開催した。

総会は午後4時半、松浦英樹副会長の開会宣言で始まった。冒頭で森村会長は、「当協会は昨年10月、より良いプラスチック資源循環の創出、業界の地位向上、事業環境の改善などを目的として設立された。記念すべき第1回の定時社員総会を迎えるにあたり、皆さまのご賛同とご協力に改めて感謝申し上げたい。近年、プラスチック廃棄物問題は国内外で喫緊の課題となっている。製造・流通・消費・回収・再資源化という全てのプロセスで連携が求められる中、私たち協会が果たす役割は極めて重要と考えている。業界横断的な連携、そしてイノベーションの促進が期待されている。本日の各議案について慎重に審議いただきつつ、皆さまと協会の方向性を共有し、より実効性のある取り組みへつなげられたら。資源を無駄にしない社会から資源を活用し続ける社会へ転換することが必要であり、本日の総会が、一社では成し得ない変革を業界全体で実現してい

くための第一歩となれば」と呼びかけた。その後、議長に本田大理事を選出し、第一号議案「令和6年度事業報告」、第二号議案「令和6年度決算報告、貸借対照表」と呼びかけた。その後の議案に本田大理事「令和6年度事業報告」、第三号議案「令和7年度事業計画」、第四号議案「令和7年度収支予算」を審議、それぞれ原案どおり承認した。

環境・経産両大臣への要望書提出など報告

各議案のうち、令和6年度事業報告では、昨年10月の設立以降の活動として、浅尾慶一郎環境大臣と武藤容治経済産業大臣に提出した要望書「プラスチック製容器包装及び分別収集物の入札制度に関する要望」の概要を報告。地球温暖化や海洋汚染防止、サーキュラーエコノミー等の地球規模の環境課題に対し、材料リサイクル業界においてもプラスチック資源循環を通じて継続的に貢献する観点から、目下の課題である現行の容器包装リサイクル入札制度の抜本的見直しを求めたことを説明した。両省からは合同審議会に諮る必要があり、前向きに検討するとの考えが示された。また今年3月には、協

表、正味財産増減計算書、収支計算書、財産目録」、第三号議案「令和7年度事業計画」、第四号議案「令和7年度収支予算」を審議、それぞれ原案どおり承認した。

会として初となる令和6年度研修会を開催し、会員各社が参加する中、環境省および経済産業省から講師を招き、プラスチック資源循環の推進や、「成長志向型の資源自立経済の確立」に向けた取り組みについて研修した。

令和7年度事業計画には、こうした令和6年度の活動を受けて、容器包装リサイクル入札制度の抜本的見直しに向けた働きかけの継続と、見直しに係る環境・経産両省の合同会合における要望、諸課題の整理と解決に向けた検討、行政や関係団体等の連携、講習会・研修会事業、情報交換・交流事業、広報・普及啓発事業など全5項目を盛り込んだ(概要を3面に掲載)。

プラ資源循環促進へ連携強化に期待

総会后懇親会に国会、関係省・団体より来賓多数

第一回定時社員総会後は、午後 6 時から懇親会を開催した。総会に引き続き会員各社が参加し、来賓には自民党の寺田稔衆議院議員、経済産業省資源循環経済課の田中将吾課長、環境省容器包装プラスチック資源循環室の井上雄祐室長、(公財)日本容器包装リサイクル協会の西山純生代表理事専務、(公財)廃棄物・3R 研究財団の梶原成元理事長など、国会、関係省・団体から多数の出席があった。



多くの来賓が参加した懇親会の様子

懇親会では森村会長の挨拶(下段に要旨)に続き、来賓から祝辞が述べられた。

初めに壇上に登った自民党の寺田稔衆議院議員は、「皆さま方とは地域廃棄物適正処理推進議員連盟事務局長の立場でも、これまで意見交換などさせていただいた。また本日は昨年10月の設立から初の総会を迎えられたこと

で、まずはお慶び申し上げます。さて、先週開催されたカナナスキ

ス・サミットにおいても

循環型社会の構築が大き

な柱の一つとして取り上

げられた。一方、プラス

チックリサイクルの歴史

はすでに20年を超えるも

の、完全な形での資源

循環はまだまだの国でも

果たされていない。こう

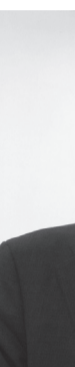
した状況で、我が国にお

いても新たな一歩を踏み

出すタイミングで、プラ

スチックリサイクルを本

格的に進めていただく協



寺田稔衆議院議員

に閣法として提出させていただき成立したところ。改正内容は多岐にわたるが、やはり資源循環を進めるには投資支援とルー

会が設置され、活動を開始されたことは非常に心強く感じる。先般の骨太の方針においても、資源循環をしっかりと進めることが盛り込まれ、新しい資本主義実現本部においても業界の皆さまが適正な利潤を確保し、事業の拡大を図る枠組みを構築することが明確に打ち出された。会員企業は27社とのことで伺ったが、非常に大きなポテンシャルを持ち、私も期待を込めているところ。また今後は大規模な設備投資も必要になると考えるが、我々

もその支援に努めてまいります」と挨拶した。

次いで、公務の都合上、出席のみなわなかつた小林史明環境副大臣からのビデオレターが投影された。小林副大臣は、循環

経済への移行が廃棄物の適正処理と脱炭素への貢献だけでなく、自然再興

(ネイチャーポジティブ)につながる。環境政策における重要課題になって

いることと、その実現のために、環境省としても

各種施策において積極的な支援を行う方針であることを説明した。

また経済産業省からは資源循環経済課の田中将吾課長が出席し、「昨年の設立記念式典にも出席させていただき、以降、皆さまが大変な熱意を持って循環経済

容り入札制度見直しへ 合同会合開催の意向



経産省・田中将吾課長

に取り組んでいただいていることに私からも感謝申し上げます。さて、先ほど森村会長よりご紹介のあった資源有効利用促進法の改正案だが、先の国会

に閣法として提出させていただき成立したところ。改正内容は多岐にわたるが、やはり資源循環を進めるには投資支援とルー

ル作りの両方が重要であるとの考えから、再生資源をしっかりと活用するために利用を義務化するという規定を設けさせて

いただいた。我々としてはまずプラスチックの循環を進めたいというふう

に考えており、明日から早速、来年4月の施行に向けて対象資源、対象品目に係る議論を進めてまい

りたい。こうした環境整備



(一社)プラスチックサーキュラーエコノミー推進協会 会長 森村 努

本日は第一回定時社員総会、懇親会に多くのご出席をいただき、改めて感謝を申し上げます。

さて、昨年の設立記念式典で私は、我々がただ環境問題を解決するためだけの団体ではないと申し上げた。業界を次のステージへ引き上げるためのビジョンを持っている。

それは経済成長と環境保護の両立である。この言葉は今も私たち協会の根幹を成す理念と考えている。

環境に配慮した持続可能な取り組みは、もはや企業倫理の範囲を超え、産業競争力の源になりつつある。そして材料リサイクル事業がその先陣を切る存在になり得ると確信している。

私たちは27社の会員企業を擁し、容器包装プラスチックの契約数量は年間43万トン。この中から生み出される約

21万トンの再生プラスチックは日本国内でも有数の規模であり、このスケールを背景に廃棄物処理から一歩進んだ資源循環の産業化を目指している。再生材をただ使うだけでなく、積極的に選ばれた素材へと昇華させる。そのためには官民連携による制度設計と市場形成、そして業界全体の技術向上が不可欠。ご存じのとおり、資源有効利用促進法が改正され、再生資源の利用義務化、製品設計段階からの環境配慮等が法的に求められるようになった。これは日本が循環経済に移行するということの意思の表れであり、私たちにとってはまさに転換点となる。

経済成長と環境の両立へ政策提言強化

協会として一層、政策提言を強化し、現場の声を行政に届け、制度と市場の橋渡しを行うことが重要な使命の一つ。そして、官民学の垣根を越え、より良い競争の場を築いていくことが我々の存在意義であるとも考えている。

本日の懇親会を通じて、業種や立場を超え自由に交流を深めていただき、新たなパートナーシップやプロジェクトのきっかけとなることを期待したい。

環境省の容器包装プラスチック資源循環室の井上雄祐室長は、「先ほど田中課長もおっしゃったように、プラスチックの再

備によって、皆さま方の持つ大きなポテンシャルを産業競争力につなげ、日本のもつづくり産業に再生プラスチックを供給

令和7年度事業計画の概要

令和7年6月25日

一般社団法人 プラスチックサーキュラーエコノミー推進協会は、プラスチックリサイクル事業を通じ、世界的な趨勢であり、社会の要請である経済成長と持続可能な社会を脱炭素（カーボン・ニュートラル）とともに実現するために一般社団法人として、公益の増進と会員企業の安定と成長のための事業を検討し、推進していきます。

そのために欠かせないのが「現行の容り入札制度の抜本的な見直し」であり、令和7年度事業における最重要課題として取り組みを進めていきます。「現行の容り入札制度の抜本的な見直し」なくしては、当協会正会員である、公益財団法人 日本容器包装リサイクル協会（以下、容り協）登録のプラスチック製容器包装及び分別収集物（材料リサイクル）事業者（以下、登録事業者）が我が国の資源循環の形成と環境保全に寄与することは極めて困難です。

一方、プラスチック資源循環促進法では「2035年までに使用済みプラスチックを100%リユース・リサイクル等により有効利用」を目標として掲げており、そのためにはプラスチック再商品化事業者と国や自治体、リサイクル材を使用する製造事業者とが連携して資源循環の取り組みをさらに拡大・加速していくこと、我々、登録事業者は、その業を適正・確実・持続的に行い、製造事業者や消費者から求められる品質向上を実現していくことが求められています。

プラスチック資源循環促進法の精神、環境省、経済産業省が推進する各種資源循環政策に資するためにも「現行の容り入札制度の抜本的に見直し」を令和7年度事業における最重要課題と定めて事業を進めて参ります。



環境省・井上雄祐室長



PPCE・松浦英樹副会長(乾杯)

その後、前内閣総理大臣の岸田文雄衆議院議員からの祝電披露、来賓紹介に続き、乾杯が行われた。乾杯の発声には松浦英樹副会長が立ち、「来賓の皆様さまより過分なお言葉を賜り、身が引き締まる思い。こうした場では微力ながらと申し上げるの一般的なだが、田中課長、井上室長もおっしゃったように、この資源循環こそが日本の成長の道筋であると。その一翼を担う我々が全力で取り組み、そして本日までご参集の皆様さまからのご指導を賜りながらプラスチックの資源循環を目指してまいりたい」と決意を述べた。その後、午後7時半まで参加者らは懇親を深め、本田大作理事の言葉で閉会した。

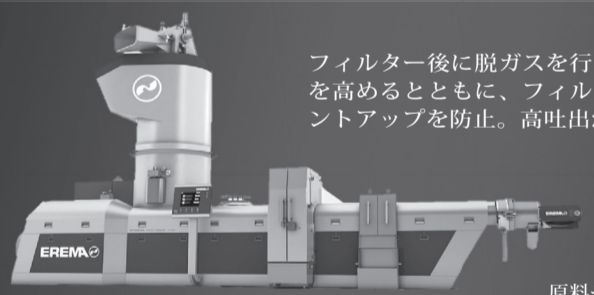
資源化は待ったなしの状況で、政府を挙げた取り組みが進んでいる。それにはまず、家庭から排出される容器包装、あるいは使用済み製品プラスチックを分別回収し、リサイクルでしっかりと受け止めることが必要であり、皆さま方からご要望をいただいている入札制度の見直しに、経済産業省と連携して取り組みたい。

早ければ今夏以降に合同審議会か、それに類する形の会合を立ち上げ、スピーディに議論を進めてまいりたい。その際は先生方のご指導を賜りながら、本日お集まりの皆さまが安心して事業拡大に取り組み、リサイクルの質と量を高め、我が国の産業のため、そしてまた市民の皆さまから見て分

かりやすく実感できるリサイクルが実現できるよう、必要な環境整備を進めたい。財政支援も、環境省だけでプラスチック資源循環に関して年間300億円を超える予算を確保している。制度面、財政面、あらゆる部分から全力で後押ししてまいりたい」と、協会が要望する容り制度の事業環境改善に取り組む姿勢を見

せた。

INTAREMA® TVE plus®



フィルター後に脱ガスを行うことで、脱ガス効果を高めるとともに、フィルターの詰まりによるベントアップを防止。高吐出が可能となります。

原料やコンタミの量に合わせて装置を選定可能です。

CHOOSE THE NUMBER ONE.

エレマ・ジャパン株式会社
〒220-0004 横浜市西区北幸2-15-1 東武横浜第2ビル 5F
TEL: 045-317-2801 FAX: 045-317-2803
E-mail: mc@erema-jp.com

プラスチック材料 購入、販売

プラスチックリサイクル 推進コンサルティング

エムオフィス
代表 石垣 勝

〒920-1154
石川県金沢市太陽が丘7工区5街区11
TEL&FAX 076-205-1217

石油製品（燃料・潤滑油）販売

プラスチック製品販売

**プラスチック樹脂の
トータルソリューションパートナー**

業界をリードする高品質なプラスチック樹脂を提供します

私たちは、様々な業界のニーズに応えるために、
広範なプラスチック樹脂のラインアップを取り揃えています。

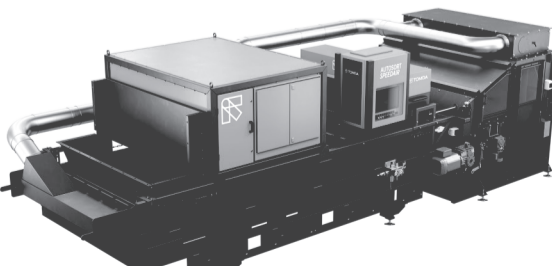
取扱樹脂	当社のサービス
<ul style="list-style-type: none"> ● 容り樹脂 (PE, PP, 混合, PS など) ● 汎用樹脂 (PE, PP, PS など) ● エンジニアリングプラスチック (PA, POM, PC など) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 世界中のサプライヤーとの強力なパートナーシップにより、安定した供給を実現 ● 専門家による技術サポートとアドバイス ● 短納期対応と柔軟なカスタマイズサービス

株式会社 **LASTiQ**
代表取締役 檜森 哲矢
〒016-0873 秋田県能代市宇長崎42-1
☎080-6008-9981 E-mail lastiq.akita@gmail.com

TOMRA

**AUTOSORT™
SPEEDAIR**

ミックスプラスチックを時間4トン選別



QRコード

トムラソーティング株式会社
info-japan@tomrasorting.com

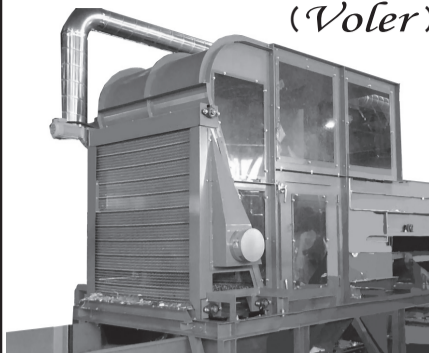
優れた成形力で リサイクルに新しい息吹を！

射出容量が40-500Lのリサイクル材用 成形機は当社におまかせください。

アース・エコ・ジャパン株式会社 晴海事務所
〒104-0053 東京都中央区晴海2-2-42-4703
携帯 090-4835-0320 Tel/Fax 03-6204-2875
Mail : tanabe@earth-eco-japan.com

簡易風力選別機

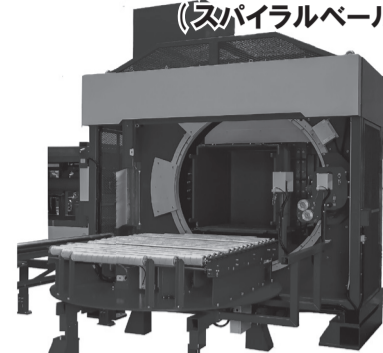
(Voler)



- 資源ごみ設備での生産性向上
- 容リフラ選別での異物除去に貢献
- 産廃設備での選別精度向上に貢献

六面フィルム包装機付圧縮梱包機

(スパイラルロール)



- フラサイズ、容リサイズ対応で高重量
- 低ランニングコスト(フィルム消費等)
- 低電力、高処理能力

NED お客様のニーズを引き出す開発型企業
大阪エヌ・イー・ディー・マシナリー株式会社
http://ned-machinery.co.jp/

大阪 本社 大阪府大阪市西区立売堀2丁目5-12
TEL 06(6534)6900 FAX 06(6534)6968
関東営業所 神奈川県横浜市港北区新横浜1-13-12クワゲルンビル403号
TEL 045(473)6222 FAX 045(476)8885

大阪 NED マシナリー 検索

CLOSED LOOP RECYCLE FORUM 2025

2025.11.25 Tue, 26 Wed

循環型経済に向けて日本そして欧州の取り組み

Closed Loop Recycle Forum とは

近年、欧州では資源を循環させるサーキュラーエコノミー（循環経済）が定着し、さらにクローズドループエコノミー（完全循環型経済）への発展が進んでいます。製品の設計段階からリサイクル・再利用を前提とし、可能な限り廃棄物ゼロを目指すこの取り組みは、企業の競争力向上や環境負荷の低減にも寄与しています。しかし、日本ではサーキュラーエコノミーの概念自体が十分に浸透しておらず、多くの企業や自治体実践方法を模索しているのが現状です。本講演会では、欧州のクローズドループエコノミーの最前線で活躍する専門家を招き、その成功事例や具体的な実践方法を紹介し、日本での導入の可能性を探ります。

日程 11.25 Tue 9:30~17:30 ※18:00-20:00 懇親会
11.26 Wed 9:00~17:00

会場 ジ・オリエンタルテラス
〒432-8021 静岡県浜松市中央区佐鳴台6-8-30

定員 80名 (事前申込制。応募者多数の場合は抽選)

内容 基調講演 (欧州・日本の専門家による事例紹介)
パネルディスカッション (欧州・日本の専門家、リサイクル事業者による意見交換)
Q&Aセッション (参加者との双方向ディスカッション)



梶原 成元 氏
公益財団法人廃棄物・3R研究財団理事長



Julia Stadler 氏
STADLER Anlagenbau GmbH Co-CEO

対象者 企業経営者・サステナビリティ担当者
環境政策を推進する自治体関係者
学術・研究機関 (環境・経済・デザイン分野)
環境事業従事者

参加費 80,000円 / 1名様
※交通費、宿泊費は含まれておりません。
参加費に含まれるもの
●2日間のカンファレンス参加
●懇親会 (1日目)
●昼食費 (1日目・2日目)



お申し込みはこちら



主催：クローズドループ・リサイクルフォーラム実行委員会事務局 企画：EEFA 協賛：公益財団法人 廃棄物・3R研究財団(申請中) 後援：日本シーム株式会社 SDGs事業部

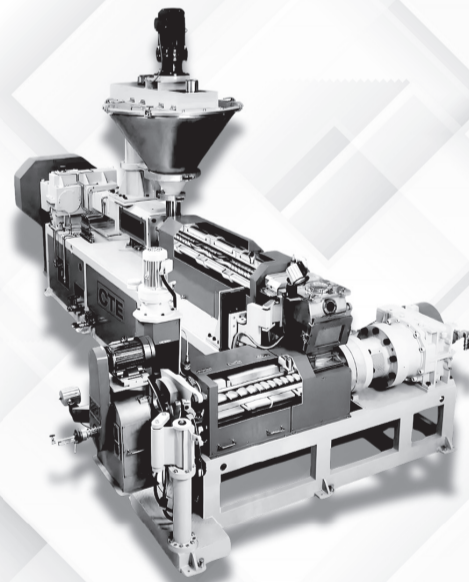
cte 株式会社シーティーイー

マテリアルリサイクルを 支える最先端の押出技術！

高濃度フィラー・再生材に最適化されたHTM型タンデム式混練押出機！
優れた分散・脱気性能により、リサイクル材でも安定した品質を実現します。



https://cte-japan.com info@cte-japan.com 048-778-0393



EARTHTECHNICA

株式会社アーステクニカ

お問合せはこちら

一括回収／個別回収
マテリアルリサイクル設備をご提案

